



コロナ禍における下諏訪レガッタについて

下諏訪町漕艇協会長 西村 和幸

2020年、東京オリンピック・パラリンピックが1年延期と決まったこの年、第39回下諏訪レガッタに関して、大会をどうするかではなく「どうしたら大会を安全にできるか」を念頭に、三役会や理事会で検討しました。役員の中に保健師や病院勤務者が居り、総務部長も加わって、女性でのプロジェクトを立ち上げ、町漕独自の新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインを設けました。

体調チェック、陸上でのマスク着用、手洗い・消毒の徹底、陸上での対人距離確保などを定め、また、各クルーにはアルコール系消毒液、タオル（ウェス）、ゴミ袋を用意していただき艇やオールの消毒も必須としました。公式練習期間中は、事前に「仮エントリーシート」の提出、練習の都度「練習乗艇申込みシート」を提出、役員がチェックをいたしました。

大会当日は「健康状況確認シート」を出していただき、施設面では30分ごとにトイレや蛇口の消毒を役員が実施しました。さらに、応援席でのバーベキューなども禁止としました。

大会前夜の開会式は各クルー1名の出席と限定し、時短を図るため、組合せの抽選を止め、また、当日の300mレースも取り止めました。



コロナ禍ということで、参加クルーが例年より約30クルー減少しましたが、こうしたガイドラインをそれぞれのクルーがきちんと順守いただいたことが大会成功につながったものと感じました。

同レガッタは諏訪湖での2020年初大会でもありましたが、視察に訪れた日本ボート協会の大久保尚武会長は表彰式のあいさつで「今年の、全国で初めての大会ではないか。下諏訪レガッタの開催は(一年延期された)東京オリンピックでのボート開催に自信を得ました」と話し、徹底した感染症対策を展開した大会運営を評価していただきました。



写真上から

○コックスはマスク着用厳守。全員がマスクをしたクルーも ○検温 ○30分ごと入念にトイレ清掃 ○閉会式の様子



このことは、日本ボート協会発行の小冊子「Rowing」561号にも載せていただきました。

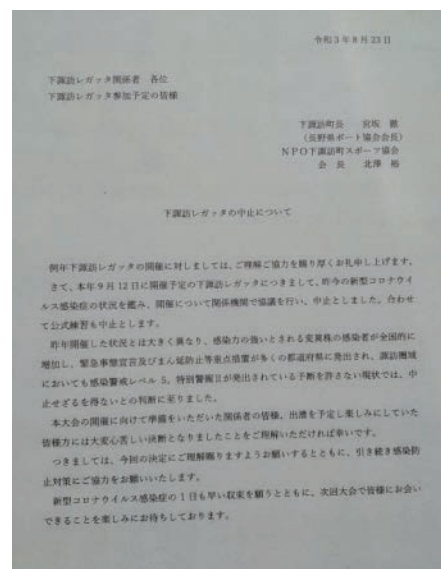


コロナ禍 2021年の第40回大会中止

2021年、今年は第40回大会ということで、コロナ禍ではありましたが、昨年の実績もあり、実施すべく進めていました。下諏訪ローイングパークでアルゼンチンやイタリアのオリンピック選手、また、パラリンピック日本代表選手の事前合宿があり、レガッタの公式練習が例年より10日程遅い7月30日から始め、約40クルーの仮エントリーもあり、練習に熱が入っていました。

しかしながら、コロナ第5波は変異株による感染が急速に拡大する中で、主催団体の町からレガッタ開催可否の判断基準が8月18日に示され、8月20日に緊急理事会を開きました。コロナウィルスが全国的に猛威を振るい、長野県も全県に県独自の非常事態宣言（感染警戒レベル5）を発令、諏訪圏域も毎日新規感染者が確認される状況を鑑みると、今年は取り止めにしてほしいという理事会での結論に至り、大会を主管する立場として23日には町長にこの旨を具申し、町は直ちに40回大会を中止すると決定されました。長野県が上から2番目のレベル5で、かつ、医療緊急事態宣言や県民の命を守る月間という状況下では、適切な判断であったと感じました。事前に大会の中止決定がされたのは初めてのことです。

コロナ終息は見通せないけれど、スポーツの持つ力や役割を考慮して、これからも安全な大会運営ができれば良いと考えています。



写真上から
○掲載された「Rowing」561号を手にする西村和幸会長
○町選艇協会として方針を決定した緊急理事会 ○中止決定の文書



下諏訪レガッタ開会式



ナックル艇の消毒場所

乗艇後、写真に赤丸で記した場所の消毒を必ず行ってください。
※ ストレッチャー・シート・クラッチピン・オールについては全ボウシヨンの消毒をお願いします。

